

[No. R5-10-12] みどりの食料システム戦略緊急対策交付金のうちグリーンな栽培体系への転換サポート

# 産地戦略

実施期間 令和7～11年度

実施主体 コウノトリ育む農法技術向上協議会  
都道府県 兵庫県  
対象地域 豊岡市  
対象品目 水稻



## 新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

- 有機質肥料を用いた穂肥の施用
- 土壌分析による施肥体系の構築
- 江の設置（中干し、水管理）

## 目指す姿

この地域では「コウノトリ育む農法」が普及しており、環境に優しい農業が定着しつつある。コウノトリ育む農法には、化学肥料や化学合成農薬の使用を減らした「減農薬栽培」とそれを全く使用しない「無農薬栽培」があるが、無農薬栽培は農薬を使用しないため除草技術の確立が難しく、また低収量であることから、近年面積が伸び悩んでいる。豊岡市で令和4年度から実施の学校給食への無農薬米の提供を行うに当たり、「無農薬栽培での収量の確保」がさらに重要になっている。無農薬栽培、有機農業の面積を今後拡大していくために、有機農業でも適切な方法で栽培すれば収量が確保できること、また除草作業等による労力も、省力的な技術を用いれば労力の軽減になることを検証する。

## 現在の栽培体系（育む農法コシヒカリ無農薬タイプ参照）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	堆肥	田植え	中干し			刈取り	堆肥	秋おこし			冬みず田んぼ		・中干しは、オタマジャクシがカエルになるのを確認してから開始（コウノトリの餌場確保のため）。 ・元肥は田植え同時に側条施肥で行う。
技術名	早期湛水							土づくり					

## グリーンな栽培体系（多収穫品種）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	堆肥	田植え	中干し	穂肥①	穂肥②	刈取り	堆肥	秋おこし			冬みず田んぼ		・江の設置により生き物の逃げ場ができ、中干しを早く行うことができるため、根に酸素が入りやすくなることで生育向上が期待できる。 ・元肥は田植え同時に側条施肥で行う。
技術名	早期湛水			有機質資材の施用※1				土づくり	江の設置※2				※1「無農薬多収穫品種の栽培マニュアル」参照 ※2「江の設置による生物多様性保全」参照

## グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	面積	備考
（参考）豊岡市内の水稻作付面積（ha）	2,853	令和5年度時点※1
（参考）育む農法取組面積	512	令和6年度時点※1
（参考）コウノトリ育む農法（無農薬タイプ）	244	令和6年度時点※1

	R3	R6	目標(R11)	備考
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	142	162	▶ 162	有機農業（水稻）の取組面積※2
環境にやさしい栽培の取組面積（ha）	—	0.3	▶ 20	穂肥の実施、江の設置※3
多収穫品種栽培面積	—	12.2	▶ 20	学校給食通年提供に必要な面積※3

※1 豊岡市調べ、※2 県調べ、※3 協議会調べ

## 環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

### （技術の内容・効果）

分類	コシヒカリ無（現状）	多収穫品種で新たに取り入れる技術	期待される効果
環境	—	江の設置	生き物の住処の確保。 トサマガエルの変態に依存しない中干しが可能となり、ほ場のガス抜き効果が向上。

分類	コシヒカリ無（現状）	多収穫品種で新たに取り入れる技術	期待される効果
環境	有機質資材の施用（茎肥1回）	有機質資材の施用（穂肥2回）	多収穫品種の収量向上

## （技術の効果の指標・目指すべき水準）

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境	学校給食における無農薬米の通年提供	4ヶ月(白米量32t)	通年	長期休暇を除く

\* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）

\* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

## グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

兵庫県豊岡市は「コウノトリ育む農法」が普及しており、市では令和4年度から実施の学校給食への無農薬米の提供を行っている。そのため「無農薬栽培での収量の確保」がさらに重要になっている。しかしながら除草技術の確立が難しく、農業者毎の収量にはばらつきが生じていることから、近年面積が伸び悩んでいる。そこで、本事業で作成したマニュアル等を用いて講習会などで広く普及し、地域全体の栽培技術の向上を図る。

## 関係者の役割

関係者名	豊岡農林水産振興事務所	豊岡農業改良普及センター	J A たじま	豊岡市
役割	事業主体	技術の普及・指導	技術の普及・指導	事業のコーディネート

## その他